

# ～西区各圏域の支え合いのしくみづくり会議や 支え合いのしくみづくり推進員の活動を報告します～

資料4

地域包括ケアシステムの構築における「支え合いの地域づくり」について、コロナウイルス感染症の影響下でも様々な工夫をして活動の支援を実施しました。その一部をご紹介します（2022年3月発行）

## 支え合いのしくみづくり推進員って何をする人なの？

支え合いのしくみづくり推進員は、高齢者をはじめとする地域住民が住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていけるよう、生活支援・介護予防のために「地域で支え合うしくみづくり」を進めるのが仕事です。

私たちは、地域の人と声をかけあい、困りごとは互いに支え合いながら自分らしく暮らしていける西区にしていくため、「支え合いのしくみづくり会議」を開催し、地域の特性や高齢者の生活課題（困りごと）を把握し、地域で助け合うしくみの開発や担い手の発掘・育成、ネットワークづくりを地域の皆さんとともに進めます。

## 支え合いのしくみづくり研修会の開催 2021.9.10（金）

社会福祉法の改正で社会福祉法人による地域貢献が求められるなか、西区でも取り組みを模索している事業所、事業所と連携を考えたい地域の声が聞かれるようになりました。そこで「**地域における公益的な取り組みを考える**」と題し、今年度は社会福祉法人の職員を対象とした研修会をオンラインで実施しました。

社会福祉法人が地域貢献を行う背景や意義、地域との関わり方について学ぶとともに、「地域と協働し、事業所の車を使って、地域の高齢者の買い物の移動支援」に取り組みはじめた施設及び地域の方からの事例報告をしていただきました。

参加された方からは、「今後利用者との関わりの中で、何に困っているのか、何が必要なのか状況把握していきたい」「社会福祉法人が地域貢献する立場にあることを改めて認識した」「ほかの事例も聞いてみたい」など前向きなご意見をいただきました。

## いきいき西区ささえあいプラン懇談会の参加

令和3年度から第三次計画が開始した「いきいき西区ささえあいプラン」の地域別計画について、振り返りを行う懇談会が行われました。

支え合いのしくみづくり推進員も出席し、地域の意見交換を支援しました。

コロナウイルス感染症の影響が続く中でも実施・継続できた地域活動を振り返るとともに、その中で出てきた新たな課題を共有し次年度の取り組みについて活発な意見が交わされました。



# 生活支援の取り組み

高齢になり、ゴミ出しや買い物、庭木の手入れや除雪などが難しくなる人が増えています。そうした暮らしの困りごとを地域で支え合う取り組みが広がっています。

## 小針緑町たすけあいクラブ

令和2年4月に自治会の有志で「小針緑町たすけあいクラブ」が結成されました。同クラブでは、庭の草取り、剪定、ごみ出しなどの生活支援や認知症検査への補助、生活相談などの活動を行ってきました。

令和3年4月からは新潟市住民主体の訪問型生活支援補助金の交付を受けて、民生委員などを行っている見守り訪問の対象者を増やし、自治会内の見守り活動を強化しました。訪問先で困りごとを聞いた時は、地域の人材を生かして生活支援を行っています。

2か月に1回、たすけあいクラブの会議を開催し、支援者同士で情報共有や勉強会を行い、困りごとに適宜対応できる体制を整えています。



## 立仏なじらね隊友の会

買い物や通院といった移動を伴うものやゴミ出し・除雪のような身の周りでの困り事が地域で聞かれたことから、生活支援団体の取り組みが立仏・焼鮎地域で令和3年11月にスタートしました。

地域住民の有志で構成される団体の役員のほか、アドバイザーとして当地域の民生児童委員も入っています。支援をして欲しい人と支援を行う人を、利用調整役と呼ばれる人がマッチングしています。

支援の際は、現金の受け渡しをせず、事前に購入していただいたチケットを受け取ります。

↓病院等への付き添いの様子

毎月1回定例会議を行い、翌月の活動についての調整や支援内容について話し合い、役員間での情報共有を図っています。

取り組みがスタートして約半年ですが、地域住民にとって大切な取り組みになっています。今後も、取り組みが円滑に続けられるようサポートしていきたいと思えます。



## 坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会 買い物移動支援 特別養護老人ホーム白鳥の里との協働事業

10月6日（水）坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会による買い物移動支援サービスが開始しました。

同学校区在住で、交通手段が無いなど買い物に不便を感じている高齢者をイオン新潟西店へ送迎しています。特別養護老人ホーム白鳥の里より車と運転手の協力を得て、月に2回実施しています。

毎回、同協議会の福祉部員や民生委員が車に添乗し、参加者が安心して買い物できるように配慮しています。

同協議会では、今後のニーズに応じて実施回数を増やすなど対応を工夫したいとのことです。



送迎車に貼った「買い物に行こう」のステッカーが目印です。



←坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会のロゴ入り買い物袋を参加者に進呈。買い物中の参加者の目印にもなります。

## 大野校区ふれあい協議会 買い物支援

令和2年度から、地域住民向けの移動販売についてのアンケート調査や複数回の試験販売の開催と出口調査を経て、2つの拠点で週1回の移動販売が令和3年7月よりスタートしました。

↓試験開催時の出口調査の様子



開催日にはお年寄りだけではなく子育て世代が買い物されていたり、ご近所同士で挨拶やお話をされる光景や近くのお宅に声をかけてお誘いしている様子が見られます。

買い物支援としてだけの取り組みではなく、交流の場としての役割も感じる事が出来ます。

# 地域でのネットワークづくり

## 赤塚中学校区 ささえあいプラン情報共有会

赤塚中学校区では、令和3年4月より「ささえあいプラン地域別計画」の実施に向けて話し合いがスタートしました。

コロナ禍で従来のイベントが実施しにくい中、『お互いの地域が支え合い、ひとつになろう！』とのスローガンを実現するため、中学校区内の各地域の情報を収集し、コミ協だよりを活用して情報発信・イベント参加募集・ボランティア募集をしていくことになりました。



写真の通り、令和3年11月に第1回情報共有会が開催されました。佐潟のハス復活プロジェクトなど様々な情報が持ち寄られ、活気のある話し合いとなりました。

## 内野地区 民生委員と自治会長の懇談会

内野小学校区では、まちづくり協議会の声掛けにより昨年12月に「民生委員と自治会長の懇談会」が開催されました。互いに日頃の活動の情報交換を行い、顔の見える関係づくりのために企画されました。

当日は3つのブロックに分かれて活発な情報交換が行われました。「いろんな話題が出て、有意義だった。さらにしっかり話をしたいので、定期的で開催してほしい。」との声も聞かれました。



## 真砂小学校区 認知症サポーター養成講座



コロナ禍の影響で、ささえあいプランの活動計画の取り組みを進めることがなかなか難しくなっている中、真砂地区より認知症サポーター養成講座のご相談がありました。

『近隣のつながりを強化し、困ったときに頼れる地域づくり』の取り組みとして、ご近所のつながり強化やサポーターの育成をまずは進めたいとのことでした。事前の打ち合わせでは、「今回の講座が各自治会での開催につながるといいね」「自治会役員と民生委員が一緒に受講することで、一緒に地域課題に取り組めるといいね」という意見があり、今後の取り組みや連携を視野に入れた講座や講話の内容になりました。

当日は、前半の認知症サポーター養成講座のあと、「認知症の人と家族の会」の等々力さんから講話をいただき、休憩をはさんで約3時間の会になりましたが、参加された40名ほどの民生委員、自治会役員の方々は熱心に耳を傾けておられました。地域で認知症の人をどう見守っていくか、それぞれの地域での取り組みはまだまだこれからです。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりのため、これからも一緒に取り組みを進めます。



# 多世代交流支援 ～子ども・若者と一緒に～

## 医療技術専門学校 実習受け入れ

新潟医療技術専門学校の先生より、看護学科の学生実習をお茶の間で受け入れていただけないか、とのご相談があり、学校近隣のいくつかのお茶の間に協力をいただきました。



コロナ禍ではじめて地域にでる、という学生さんが多く、緊張いっぱいの様子でしたが、皆さんがあたたかく迎えてくださり、よい学習となったようです。今後も地域と学校との交流が続くとよいですね。



## 新潟医療福祉カレッジ

学生による スマホ講座でつながりづくり

新潟医療福祉カレッジの学生グループが西地区公民館と連携して、高齢者向けのスマホ講座を開催し、交流を行いました。



学生と参加者がペアになって楽しく交流しながら、ビデオ通話やお料理アプリでの献立作りなど体験を通じた学びの場となりました。3回コースで行われました。



## アトメメ 新大生と茶の間の交流



新潟大学の学生グループのプロデュースで、地域の茶の間参加者の手芸作品を展示・販売しました。当日は駄菓子屋や子ども食堂ともコラボして、多世代で居心地よく楽しく過ごせる空間になりました。



## 小針小学校 お茶の間交流

12月18日(水)小針小学校4年3組の生徒が地域の高齢者を学校に招いてお茶の間の開催しました。

コロナ禍で外出や交流の機会が少なくなった高齢者に地域とのつながりを取り戻してもらおうと、小針地区のお茶の間の運営者や民生委員の協力を得て、生徒たちが企画・実行しました。

お茶の間の当日は感染対策を講じた上でおしゃべりやゲームなどを行い、参加者全員が笑顔で楽しい時間を過ごしました。



## 日本文理高校

地域の居場所づくりを考える

日本文理高校では「内野地域の居場所づくりを考えるワークショップ」が開催され、高校生と地域の方々が真剣かつ和気とあいあいと語り合いました。この後、地域の茶の間や子ども食堂と高校生がコラボした活動が生まれています。



## 地域包括ケアシステムって？

高齢者が、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に提供できる体制を言います。  
すでに各分野で様々な取り組みが始まっていますが、困ったときに助け合う生活支援や介護予防について身近な地域での取り組みが期待されています。



住民組織や  
NPOに期待される役割



## 地域包括ケアシステムのために地域は何をすればいいの？

→まずは、話し合いの場をもつこと

今の地域の課題や地域にどんなサービスや助け合いのしくみがあれば、年をとっても安心して暮らしていけるのか、また年をとっても元気で生きがいを持って暮らしていくにはどうしたらいいのか、そのために地域はどんなことができるのかを検討してみましょう。

→地域に既にある資源を生かして、できるところから始めてみる。

例えば、地域の茶の間、体操の会、ゴミだしなどちょっとしたお困りごとの支援、高齢者への訪問活動（友愛訪問）など、地域の助け合いにつながる活動を地域の特性に合わせて、できそうなところからはじめてみましょう。

## 支え合いのしくみづくり推進員にはどんな時に相談すればいいの？

→「こんなしくみがあったら助かるなあ」「支え合いの地域づくりについて知りたい」「なにかやってみたい」と思ったときなど いつでもご相談ください♪

- ・地域包括ケア、支え合いのしくみづくりについて説明に伺います。
- ・地域での福祉活動「茶の間・友愛訪問・助け合いの活動をはじめたい、やっているけど問題がでてきた等」のご相談にのります。
- ・地域での話し合いの場に出向き、話し合いのお手伝いをします。

圏域		
小針・小新圏域	阿部 いずみ	電話025-201-1351 地域包括支援センター小新・小針内
坂井輪圏域	細貝 昌明	電話025-211-8084 道場山穂波の里4階
五十嵐圏域	鈴木 由理	電話090-7755-6870 地域包括支援センター五十嵐内
黒埼圏域	宮田 大輔	電話090-4203-4839 地域包括支援センター黒埼内
内野・赤塚・中野小屋圏域	和久井 久光	電話025-264-3377 地域包括支援センター赤塚内
西区圏域	加野 麻理子	電話025-211-1630 西区社会福祉協議会内

いつでも地域に出向きますのでお声掛けください。よろしくお願ひします。